



### 硫黄島

#### タカ鉄砲

昨年、片泊の竹の玩具『あくち鉄砲』を紹介した。大里と竹島にも同じような遊びがあるので、黒島と竹島の遊びだったと言えるだろう。硫黄島にも『タカ鉄砲』という名で同様の遊びがある。

呼び名は違うが、作り方は片泊と同じ、竹を使った空気鉄砲となる。ただし玉にする実は種類が違う。黒島では、モクタチバナという木の実は鉄砲の玉にするが、硫黄島ではカクレミノという木の実を玉にする。硫黄島内の少なくとも集落の範囲にはモクタチバナの木がない。恐らく黒島との植生の差が、使う実の違いに現れていると思われる。

カクレミノは若木の葉の形が蓑の形をしていて、その様子から名前がついた。海近くで湿度の高い常緑樹林内に自生しており、硫黄島では学校の裏庭や冒険ランドの周辺で確認できた。高さは三〜八m、大きいもので十五mにも達する。関東以西、四国や九州に分布する。七月から花が咲き始め、青い実が順次なり始める。十〜十一月に紫黒色に熟すが、タカ鉄砲には青い実を使う。

なお、十島でも昔モクタチバナ（「あくち」「あくちぎ」と呼ぶ）の実を使う空気鉄砲を作っていたという。他に、片泊と宝島で同じトビハゼ捕りの遊びした記録もあり、かつて文化を共有していた様子が伺える。今後、他に共通点がないか調べてゆきたい。

#### 思い出話

「学校で鉛筆削りに小刀を使っていますでしたが、男の子はその小刀で色んな玩具を作ったものでした。」

硫黄島地区 七〇代 男性

